

# 航海マネジメントコース

## 学べる科目紹介

### 入学

#### 全学共通授業科目

基礎教養科目  
総合教養科目  
外国語科目  
情報科目  
健康・スポーツ科目  
共通専門基礎科目  
(数学、物理学、化学)

#### 学部共通科目

##### 基礎的な科目

初年次セミナー  
コミュニケーション英語  
ライティング英語  
応用数学1・2  
海事理化学実験1・2 など

##### 学部にて特徴的な科目

海事科学通論  
海事社会学  
海洋学  
地勢学  
経済学I  
基礎ゼミ1・2 など

##### 他学部開設科目

国際経済法(法学部)  
国際法I・II(法学部)  
国際貿易(経営学部)  
国際交通(経営学部)  
環境経済論(経済学部)  
など

#### 高度教養科目

海事を科学するI  
海事国際法  
気象学  
経済学Ⅲ など

#### 学科共通科目

船舶実習1 海運経済論 海事環境工学  
海上保険論 海事政策論 会計学  
経営組織論 経営戦略論  
経済学Ⅱ など

#### Close Up

##### 経営的視点を養うため 社会科学系科目を強化

日本における国際海上輸送の発展のため、日本人海技者の今以上の資質向上が求められています。そこで、より総合的に国際海上輸送を理解できるよう、経済学・会計学・海事政策論など社会科学系科目を強化します。

#### Close Up

##### 広い学問領域に触れた上で 2年次からコースを選択

1年次に全学共通科目や学部共通科目を履修。幅広く学び、自分の適性を見極めた上で、所属コースを選ぶことができます。2年次から専門的な内容を扱う学科共通科目やコース別の専門科目を履修。

#### 第一専門科目

海技実習 航海学1・2 航海計器学1  
船舶安全学 操船学1 海洋気象学  
海事法規 海上交通法1・2  
航海学演習1・2 学内船舶実習1・2  
船舶実習2・3 など

#### Close Up

##### コースに特化した 船舶実習と集中授業

3年次後期に2か月間、海技教育機構の練習船を利用した「船舶実習2」を開講。その後、同学期の残り約2か月間は、科目当たり週平均2コマの集中授業を導入し、授業内容の理解を深めます。

#### Close Up

##### 海技士養成コースの カリキュラムを高度化

これまで三級海技士免許取得に必要な科目群(35単位)を卒業必修科目にしていますが、一部科目を除外。代わりに、基礎科目を強化するとともに、関連科目の体系化を進めます。

#### 第二専門科目

流体力学1 材料力学1 電気電子工学  
航海学3 航海計器学2 海事実用英語  
海難論 海上交通心理学 船舶管理論  
学内船舶実習3 など

## 科目 Pick Up

### 航海学演習 1・2

「航海学1」と「航海学2」で学修した、航海計画の立案と航海の実行に関わる水路図誌目録を筆頭とする各種カタログ類の確認・理解や、航海の基本である船位の確認と針路の設定に関する航法計算といった理論を実践する演習。知識を“覚える”のではなく、“思考の材料とする”能力を身に付けます。

### 航海計器学 1

「Navigation(航海)」とは、人や物を運ぶ船舶・航空機・自動車などを安全かつ経済的に目的地まで移動させるため、人が判断、意思決定、行動する過程のこと。航海計器は、そのために必要な航海に関するさまざまな情報を正しく得る装置の総称です。授業では各機器の測定原理や信号の処理などを解説します。

### 海上交通法 1・2

海上交通ルールには、海上衝突予防法(国際海上衝突予防規則)、海上交通安全法、港則法があり、衝突防止のための船舶の行動規範が示されていますが、具体的な判断基準や数値は記されていません。授業では、海上において衝突を防止する各プロセスにおいて求められる行動規範を学び、知識を修得します。

### 海事法規

船舶は国際的な一つの社会です。海洋の環境保全と海運の発展には、海事法規の遵守が大切ですが、それだけでは安全や安心を確保することはできません。授業では、船舶となる「船」、そこで働く「人」、媒体である「海」、拠点となる「港(国)」の関係法を講義し、海事法規を体系的・国際的に理解します。